

上座部仏教に学ぶ

浄土宗大本山光明寺 法主 藤吉慈海

私とタイ国との係わりは、学生の頃、東南アジア交流センターの留学生の身で、パクナム寺院にお世話になったことがあります。今回、パクナム寺院のプラ・タム・パンヤー・ボディ師が来日されると聞き、大よろこびで、得度式に参加したようなわけです。

大乗仏教の日本人は、僧侶や学者も含めて、テーラ・ヴァーダ（南方上座部仏教）を馬鹿にしているというか、やや下に見ているところがありますが、戒律の点では、大いに学ばなければならぬ点がたくさんあります。戒律の数も



多いし、厳しいものがあります。上座部の仏教は大乗仏教から見ると戒律はよく守っていますが、日本ではいろいろな点において大乗仏教よりも劣るようと考えられています。たとえば、上座部の仏教では比丘の教団が強い団結を保つており、その周囲に教団を助ける信者の団体がありますが、その活動が比丘中心的であつて近代化に遅れているように思います。

上座部の仏教は東南アジアやスリランカにおいて栄えており、比丘たちも現地でかなり活躍をいたしております。特に教育や医療の面で近代化の推進役になろうとしています。上座部の仏教団は何といつても相当立ち遅れていますから、なかなか大変なことです、戒律を保つていうようなことも真実の仏教のあり方として再び検討される必要があるよう私は思います。法然上人の教えの中に「(酒は)まことに飲むべくもなけれども、この世のならひ」というの

がありますが、多くのお坊さんは下の文句だけを探りあげて「さすが、お師匠さまは、うまいことをおつしやつた」と言つては、平氣で酒を飲む。私は、法然上人も道元禅師もお酒を飲まなかつたと思います。テーラ・ヴァーダのお坊さんたちは、決して飲みません。酒を飲むのは仏教徒ではないと、厳しく戒律を守つておられます。日本のお坊さんたちは、仏跡巡拝などと称してインドを旅行しながら、ビールを飲んだりしているのを見て、向こうのお坊さんたちは、笑っています。戒律を無視してしまつた日本の大乗仏教が仏教の真のあり方であるかどうか、考えてみなければならないと思います。

パーリ語を一所懸命勉強して、得度式に臨まれたお子たちのこの精神を、私たちは、これらの新しい仏法の在り方として、大いに考えていかねばならないと思います。